

平成30年度学校評価概要

学校評議員会ならびに 学校関係者評価委員会

平成30年2月5日実施

◎参加者の意見から

学習について

- ・生徒が楽しく学べる授業を工夫していただいている。
- ・仲間どうしのつながりや互いにアドバイスする雰囲気が良い。
- ・理解の高い生徒の力を伸ばすことはもとより、理解できていない生徒への手立てを充実してほしい。放課後学習会など、大変だとは思いますが引き続き取り組んでほしい。

メディアに触れる時間について

- ・ゲームやTVに触れる時間が増えているように感じる。
- ・（我が子は）なかなかゲーム時間が減らないが、夢ダイアリーを振り返り、このままではいけないと自覚している。

夢や目標をもつ生徒の割合について

- ・生徒アンケートのまとめでは、「課題」として捉えているが、今の子どもとして、この数値（68%）は高い方ではないか。将来への期待がもてる数値であり、今後も、夢や目標をもてるような指導を充実させていただきたい。

生活について

- ・道で会う生徒の挨拶、バスでのマナーがすばらしい。気持ちや礼儀が身に付いている。ぜひ、生徒にも伝えてほしい。

生徒アンケート

平成30年12月全校生徒を対象に実施

※設問に[A充実 Bほぼ充実 Cやや不足 D不足]の4段階で回答

◎成果が見られる主な項目

- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う・・・99%
- ・髪や服装など学校生活のきまりを守っている・・・97%
- ・学校では集団や社会のルールを学ぶことができる・・・96%
- ・先生は質問やわからないところを丁寧に教えてくれる・・・95%
- ・学級活動や学校行事に意欲的に取り組んでいる・・・92%
- ・先生は学習で努力したことを認めてくれる・・・92%

◎今後の課題となる主な項目

- ・先生方は自分のことをよく理解して相談しやすい・・・78%
- ・家で学校の予習や復習をしている・・・70%
- ・将来の夢や目標をもっている・・・68%

【主な記述反省・要望】

- ・1日1回は発表する。・ノートのまとめ方を工夫する。・1日2時間以上は勉強する。家庭学習の習慣を付ける。（授業態度や学習習慣の改善に関する反省が多数）
- ・メディアとかかわる時間が長く、学習に影響が出てしまった。・ゲームの時間を減らしたい。スマホを使う時間を減らし、睡眠時間に影響の出ないようにしたい。部活動が終わってから、ゲームやテレビの時間が増えてしまった。
- ・将来の夢や具体的な目標をもちたい。・今、勉強している意味が分からない。

教職員自己評価

平成30年12月全教員を対象に実施

主な評価項目と自己評価（成果と課題）

○重点目標

- ・学ぶ喜びを実感させ、学習意欲の向上を図る教育活動の充実を図り確かな学力の向上に努めている。
- ・自尊感情の高揚を図るとともに、自己の将来を展望し、実現に向けて意欲的に学び、努力しようとする姿勢の育成に努めている。

⇒ 自己評価 A

目的「センスあるかしこい子」の育成に向けて、問題解決的な学習、集会活動や体験活動等を通して、主体性を育む教育を充実しました。

○生徒指導

- ・学校全体の秩序と安定を図るため、隙間のない指導体制と情報連携、行動連携に努めている。
- ・共感的理解を基盤にした心のふれあいを大切にし、自己をよりよく導く力を育む指導の充実を努めている。

⇒ 自己評価 A

休み時間や放課後など、生徒と教師がふれあう機会を重視し、「隙間のない生徒指導」を進めました。生徒指導上の課題に学年部・生徒指導部を中心とした組織的な対応に努めました。

○学習指導

- ・生徒の実態に即して、TT指導や少人数指導、補充学習などによる個に応じたきめ細かい指導の充実を努めている。
- ・確かな学力を育成するため、問題解決的な学習や体験的な学習を重視し、生徒に「わかる」「できる」を実感させる指導の充実を努めている。

⇒ 自己評価 A

数学科・英語科における習熟度別指導・TT指導をはじめ、全教科において「わかる」「できる」喜びを実感できる授業づくりに努めました。

○道徳指導

- ・道徳の時間を要として、ボランティア活動や豊かな体験活動に積極的に取り組み、道徳実践力を高める指導に努めている。
- ・道徳推進教師を中心とした指導体制の充実とともに、学習形態の工夫・改善に努め、心に響く道徳の時間の実践に努めている。

⇒ 自己評価 A

道徳性検査に基づき重点とする内容項目を明確にするとともに、学年を中心とした授業交流を進め、学年として道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度の育成に努めました。

○特別活動

- ・個と集団との関わりを学ばせ、望ましい集団の育成に努めるとともに、集団や社会の一員として、よりよい生活を築こうとする実践的態度を育成している。
- ・リーダーの育成や話し合い活動の充実を図り、自主性や創造性を育むとともに、個性の伸長を図る集団活動の充実を努めている。

⇒ 自己評価 A

学校行事等を通じたリーダーシップ・フォロワーシップの醸成に努めました。「いじめ撲滅集会」「ユニセフ集会」など、生徒主体の集会活動の充実を図りました。

保護者アンケート

行事終了ごとにアンケート形式で実施

◎成果を認める主な内容

参観日

- ・入学後1週間でしたが、グループでの話し合いを見て、クラスに少しずつつながっているのかなと安心しました。
- ・学年・学級懇談では、子どもの様子が聞け、親がしなければならないことも教えていただき、非常に助かりました。

校内陸上競技大会

- ・暑い中での競技となりましたが、子どもたちの成長と頑張る姿を見ることができました。
- ・生徒個人の頑張りはもちろん、クラスや学年、部活動ごとの団結力も見られ、また応援や係活動に一生懸命な姿、クスクスと笑える場面もあり、楽しんでいる子どもたちを見てこちらも元気をもらえる大会でした。

2年宿泊研修

- ・初めてのフォークダンス、専門学校体験、自主研修など、周りの人と協力して楽しい時間だったと帰宅後話していました。
- ・専門学校体験がとても楽しかったようです。考えていなかった職業にも興味をもてたようです。自主研修は時間が少なく、慌てて戻ってきたようですが、これまでやったことのないキャンプファイヤーやフォークダンスなどができて、よかったのではないのでしょうか。

明星祭

- ・バザーは、子どもが楽しみにしていたので、なくなり残念でしたが、震災の影響の中、思うほど練習が進まなかったと思いますが、どの学年も、どのクラスも一生懸命取り組んだ結果が出ており、すばらしかったです。また、来年も楽しみです。
- ・トーンチャイムは、毎年一生懸命やっていて、すごいと思いました。生徒会イベントは、クイズが楽しかったです。全校合唱は、毎年歌声がそろっていてすごいと思いました。吹奏楽部とダンサーのコラボがすごかったです。3年生は、いい思い出になったと思います。

H31年度に向けた 改善・改変の方向性

○「センスあるかしこい子」を育てる教育活動の充実

- ・生徒が自らの体験に基づき、議論したり、考えたりする道徳科の授業づくり
- ・上級学校訪問や職場体験、職業講話など、発達段階に応じたキャリア教育の充実
- ・地域の一員としての自覚を高める体験活動、奉仕活動などの交流機会の充実

○「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

- ・学習課題の明確化、課題解決過程の工夫、振り返り活動の充実など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
- ・数学科、英語科におけるTT指導、少人数指導の一層の充実（放課後や長期休業中の学習サポートの充実）

○基本的な学習・生活習慣の確立（自律に向けて）

- ・自己の生活の見直しや先を見通した計画的な学習・生活習慣づくりの促進（「明星夢Diary」の活用）
- ・「明星中学校区小中連携教育推進会議」等による義務教育の9年間を見通した学習・生活習慣づくりの推進（小中連携によるアウトメディアにかかわる家庭への啓発）